

樂美術館事業報告要旨

平成 30 年度 期間：平成30（2018）年4月1日～平成31（2019）年3月31日

I 美術館活動事業

1. 作品・資料公開活用に関して（詳細は別紙の通り）

(1) 展覧会活動

- 1) 開館40周年記念 特別展 能と樂茶碗 幽玄と侘びー形の奥にある美意識
展覧会関連企画:ギャラリートーク
- 2) 夏期展 樂焼って何だろう? 炎の中の赤と黒
- 3) 開館40周年記念 秋期特別展 光悦考
展覧会関連企画:ギャラリートーク
- 4) 新春展 変わる-時代・元号・歳・代-
- 5) 春期特別展 樂歴代 富士を見る

(2) 手にふれる美術館活動

手にふれる樂茶碗鑑賞会、特別鑑賞茶会
親子で見る展覧会 解説とワークショップ

(3) 他機関との協力活動

- 1)他の美術館・博物館との協力事業
- 2)その他の機関・団体との協力事業

2. 保存・修復に関して

3. 作品・資料収集に関して

- 1) 新規購入作品2点を基本財産に繰り入れた。
- 2) 9点の作品寄贈を受け基本財産に繰り入れた。

II 研究・資料図書公開事業

- 1) 多治見市図書館 陶磁器関係資料の収集の協力をするために下記の図録を寄付

III 学校・社会教育事業

- (1)小・中・高等学校への協力活動
- (2)大学、各種学校のゼミ、研究会への協力活動
- (3)地域社会への文化事業協力、社会教育活動

IV 入館者数状況

I 美術館活動事業 1. 作品・資料公開活用に関して (1) 展覧会活動

館展示事業

- 展示事業 1 開館40周年記念 特別展 能と樂茶碗** 2018年3月17日(土)～6月24日(日)
幽玄と侘び－形の奥にある美意識
開館40周年記念特別展 能と樂茶碗 幽玄と侘び－形の奥にある美意識
2018年3月17日(土)～6月24日(日)
可能な限り装飾を削ぎ落とした美意識は、樂茶碗と能面の目指す共通の表現と言えます。簡素で狭い茶室の中で長次郎の樂茶碗が放つ存在感は、同様に簡素な能舞台上の演者の端然とした立ち姿に比することができます。本展では能と茶の湯、特に能面と樂茶碗に焦点を当て、作品を通じて幽玄美と侘びの共演、共通する美意識を探ります。15代樂吉左衛門によるギャラリートークも開催します。
- 展示事業 2 夏期展 樂焼って何だろう？ 炎の中の赤と黒** 2018年6月30日(土)～8月26日(日)
夏期展 樂焼って何だろう？ 炎の中の赤と黒
2018年6月30日(土)～8月26日(日)
子供にも理解しやすい楽しい展示解説、鞆(ふいご)や土など作品資料に手に触れて鑑賞できるなど、工夫を凝らした展示です。
- 展示事業 3 開館40周年記念 秋期特別展 光悦考** 2018年9月2日(日)～12月9日(日)
開館40周年記念秋期特別展 光悦考
2018年9月2日(日)～12月9日(日)
樂吉左衛門が3年がかりで書き下ろした本阿弥光悦についての論考『光悦考』が刊行されました。本書に因んだ茶碗などを展示。吉左衛門が長年温めてきた光悦への熱い思いや光悦茶碗の新たな視点が浮かび上がる展覧会です。
特別展 関連企画 「15代樂吉左衛門 ギャラリートーク」 全9回開催
館長樂吉左衛門が展示作品やご自身の著書である『光悦考』について解説。
9月 6日(金) 参加者21名、9月29日(金) 参加者 24名、10月5日(金) 参加者31名、
10月12日(金) 参加者13名、10月28日(金) 参加者32名、11月2日(金) 参加者31名、
11月9日(金) 参加者33名、11月30日(金) 参加者36名、12月7日(金) 参加者36名
- 展示事業 4 新春展 変わる-時代・元号・歳・代-** 2018年12月14日(日)～2019年3月10日(日)
新春展 変わる -時代・元号・歳・代-
2018年12月14日(日)～2019年3月10日(日)
代々受け継がれ、守り伝えられ、そして新たに生まれてくるモノやコト。新時代の幕開けと共に、樂家もまた新しい世代へと移り変わろうとしています。今回は、長次郎はじめ歴代の作品を中心に、歴代が代を継ぐ以前(惣吉時代)の作品から隠居後の作品までを展示。
時代の変化、歴代自身の作風の変化による樂焼の世界観を感じる展覧会です。
- 展示事業 5 春期特別展 樂歴代 富士を見る** 2019年3月16日(土)～3月31日 (6月30日まで開催)
春期特別展 樂歴代 富士を見る
2019年3月16日(土)～6月30日(日)
今年は特別な年、新しい元号のスタートです。樂家も新しい元号と共に代替わりをします。新しき年への思いを込めて、樂歴代展を開催します。
本展では、特に日本の象徴・靈峰富士を意匠に取り入れた歴代作品を中心に展示致します。黒樂、赤樂茶碗にくっきりと描かれた的礫たる富士の絵、新しい元号の年がこの富士の ように清々しい未来世界となり

I 美術館活動事業 1. 作品資料公開活用に関して (2) 手にふれる美術館活動

1. 手にふれる楽茶碗鑑賞会

当館所蔵の作品を手に触れて鑑賞する。当館所蔵作品は、茶碗をはじめとした茶の湯工芸品である。館付属の小間茶室で茶の湯道具組を再現、その後広間に移動し、作品を手にとって鑑賞。作品の解説、質疑応答を行う。

・開催期日

定例 毎月1回開催 ※但、8月は休会

・参加者 各会 計約30名

【特別開催】

6月3日 淡交会京都東支部学校茶道連絡協議会 27名

9月8日 石川県淡交会青年部 13名

10月10日 東京大学教育学部附属中等教育学校 中学生14名 高校生7名 教員3名

12月7日 京都ホテルオークラ「季節の旅」 12名

3月5日 淡交カルチャー「楽鑑賞ツアー」 20名

3月5日 淡交社文化事業部「インバウンドツアー」 香港から 13名

3月19日 淡交カルチャー「楽鑑賞ツアー」 12名

2. 特別鑑賞茶会

当館所蔵作品を用いての茶会形式による作品鑑賞会。館長による作品解説、質疑応答を行う。

・開催期日 (8回実施)

平成30年5月13日、6月10日、7月8日、9月9日、10月14日、12月16日、
平成31年2月11日、3月24日

・参加者 各回 計約70名

【特別開催】

6月30日 裏千家みどり会 アメリカ・サンフランシスコ支部 同窓会 参加者49名

2月11日 和塾 大丸松坂屋百貨店 外商顧客限定催事 参加者17名

3. 親子でお茶一服

副館長楽扶二子が小・中学生の親子を対象に特別鑑賞茶会を行い、小間での空間を体験し、広間での茶の湯体験を指導、解説した。実際に古い楽茶碗でお茶をいただく体験に、子供も親も興味津々でした。

・開催期日 平成31年3月3日

・参加者 中学生2名、小学12生、幼児5名、保護者16名

4. 親子で見る展覧会 解説とワークショップ

館長楽吉左衛門が子供達に楽焼について解説し、黒窯制作のビデオを鑑賞。その後、子供達に実際に展示している轆を吹いたり、実際に使用している、土や、石、炭などに触れていました。また、粘土で手捏ねの茶碗も作成し、制作後は各々の作品について館長楽吉左衛門が解説をしました。遊び感覚の中で子供の自発的な発想力や観察力を発揮させるよう工夫を凝らしており、子供達からは、いくつも作品を作ったり、活発な質問も多く見られ、盛会でした。

・開催期日 平成30年8月12日、13日

・参加者 中学生4名、小学生11名、幼児5名、保護者29名

I 美術館活動事業 1. 作品資料公開活用に関して (3) 他機関との協力活動

1. 他の美術館・博物館への出品・講演など協力活動

- ・石川県立美術館 「美のチカラ -北野・朝比奈・筒井筒、揃い踏み-」
平成30年4月21日～5月20日
初代長次郎作 黒楽茶碗 銘万代屋黒 本阿弥光悦作 黒楽茶碗 銘村雲
3代道入作 黒楽茶碗 銘青山（重要文化財）計3点を出品協力
- ・東京国立博物館 創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年特別展「名作誕生 -つながる日本美術-」
平成30年3月22日～6月6日
長谷川等伯筆 山水松林架橋図襖 四面 計1点を出品協力
- ・パリ市立チュルヌスキ美術館 「京都の宝：琳派三〇〇年の創造」
平成30年10月26日～平成31年1月27日
本阿弥光悦筆、俵屋宗達下絵 蓮下絵百人一首和歌断簡
本阿弥光悦作 黒楽茶碗 銘村雲 尾形乾山 鏝絵染付松図茶碗 計3点を出品協力

2. その他の機関・団体との協力活動

- ・淡交カルチャー 「樂鑑賞ツアー」
バスで樂美術館と佐川美術館を巡る。茶室にて樂扶二子による手のひら鑑賞会の後、「新春展 変わる-時代・元号・歳・代-」を鑑賞。
3月5日 参加者20名
3月19日 参加者12名
- ・表千家短期講習会
館長樂吉左衛門がご挨拶、コンセプトを解説し、黒窯制作ビデオを上映後、「新春展 変わる-時代・元号・歳・代-」を鑑賞。
3月5日 参加者33名
3月8日 参加者34名